第27号
2022.10

Medi-Way 医療通訳だより

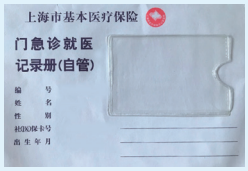
日本とちょっと違うよ－通訳者よもやま話－　Vol.6　中国語担当　井上さん

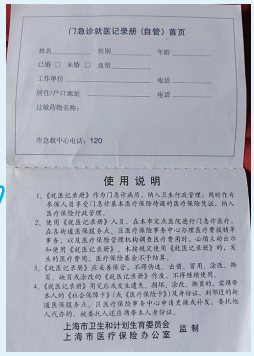
コロナ禍前、中国観光客が年々増えていた頃に、私は急な発熱などで病院を受診する患者さんとご家族のために通訳をしていました。その時に、中国と日本の医療事情の違いについて印象に残った話を２つ紹介します。

１つは中国の「外来・救急外来受診記録手帳」のことです。これは日本のお薬手帳の拡大版のようなものです。医療機関が保管する電子カルテ以外に、患者自身も受診記録を保管します。実施した検査、診断した病名、処方した薬などの内容を手帳に医師が受診時間内に手書きで記入し、患者に渡さなければならないという規定があります。レントゲン検査などの画像は有料で発行します。次回、他の医療機関で受診する際、この手帳と画像を提出すれば、今までの診療経過の大体のことが分かります。手帳に記入するのは外来・救急外来の内容のみです。入院する場合は、退院時に入院中の診療経過の記録を患者に渡します。

もう１つは救急外来で処方できる薬の日数が、日本と中国で違う点です。日本の救急外来で受診して薬をもらう時、「えっ、薬は１日だけ？！」とびっくりされる中国の患者さんがいました。中国の救急外来は３日分まで処方ができるので、中国の患者さんは３日分の薬がもらえるはずだと思っていました。特に観光で来日される場合、多くの観光地を巡るため、１回の受診で３日分の薬をもらいたいのが中国の患者さんの本音です。びっくりしている患者さんに、日本の救急外来では、通常診療が始まるまでの日数分（通常は１日分、休みの前日は２～３日分）を処方するのが原則だと話し、必要があれば翌日の一般外来を受診してくださいと案内しました。

このように日本の受診システムに驚かれることもありますが、時に患者さんたちは日本の医師の丁寧な対応と看護師の優しい声がけに感心し、私と日中両国医療事情のよもやま話に発展したこともありました。





左：上海市の「外来・救急外来受診記録手帳」（中国語：门急诊就医记录册）

右：手帳を開いたもの

～体験で学ぶ「心肺蘇生とAED」～

当社では全社員に「AED講習会」を実施しています。いざという時に命をつなぐことができるように「行うことによる学び」です。コロナ禍における心肺蘇生法とAEDの取扱い方法の習得の為に通訳者も受講しました。救命曲線を理解し、勇気をもった声がけが大切な命を救うということを学び、周囲の安全確認、意識の確認、救急車とAEDの依頼、呼吸の確認、胸骨圧迫、AED操作を実施しました。通訳者自身も医療に関わる者として、胸骨圧迫継続の大変さや他の人に協力を得ることの大切さを体感しました。「命をつなぐということ」、消防（救急）、医療者の方々に改めて深く感謝いたします。

センター長

今月のトピックス

「万能薬？」

ある通訳者の体験談です。メキシコで初めての長期海外生活の疲れが出たのか、地下鉄の駅で倒れてしまいました。意識がもうろうとする中、とっさに周りの人たちが支えてくれて、横になれる場所までなんとか移動。いろいろな質問に対してうまく言葉が出ない私を前に、彼らは何やら話し合っています。私のぼんやりした頭や耳に響き渡る「コーラ」という言葉。しばらくすると、走って戻ってきた人の手には、やはりコカ･コーラのペットボトルが！まるで貴重な薬でも差し出すかのように、私に飲むように促してきたのです。こんなに体調が悪い時に、コーラとか飲みたい気分じゃないよ～と内心断りたくなる私をよそに、目の前にはコーラのボトルと期待に目を輝かせる人々。仕方なく一口飲んでみました。すると…たちまち元気に！とはいきませんでしたが、しばらく休んだ後、無事に家路につきました。後日、なぜ倒れた時にコーラを飲むのか、と現地の友人たちに聞いてみると、「どんな体調不良でもコーラを飲むと元気になれるんだよ！」とのこと。世界にはこんな「万能薬」がたくさんあるようです。

万能薬で有名なのは香港や東南アジアの「タイガーバーム（虎標萬金油）」でしょうか。中国にも同じような「清凉油」があり、頭痛、虫刺され、乗り物酔い等々、なんにでも効く！と言われています。

でも本当の万能薬は、一生懸命助けようとしてくれた人たちの優しい心かな、と思わされたエピソードでした。

株式会社 東和エンジニアリング
東和通訳センター　TEL: 06-6292-8568
□東和通訳センター　〒530-0015　大阪府大阪市北区中崎西4-2-27
e-mail:tic@towaeng.co.jp